



日もとつぷり暮れ、学生の姿もまばらになった文教キャンパス。その一画にあるICT基盤センターに、一人また一人とかばんを提げた勤め人らしき人が入っています。ここで行われている「IT先端技術習得講座」は、長崎大学の教員が社会人を対象に、人工知能(AI)やモノのインターネット(IoT)、ビッグデータといった先端の学問を教えるプログラムです。運営に携わり、講座の一つを受け持つ工学研究科の小林透教授にお話を伺いました。

「この講座は長崎大学が長崎県から受託したもので、二〇一八年度に初めて行いました。社会人教育の中でも特にIT人材の育成を底上げしていこうというものです。昨年七月に参加者を募ったのですが、定員二十五名の枠に三十五名の応募がありました。プログラムでは、IoTやAI、ビッグデータをテーマに、その仕組みや動かし方を実践的に学びます。受講者は、退社後に二時間以上の講義を受けるわけですから相当ハードなはずですが、脱落者はほとんどいません」。

講座をのぞいてみると、企業のエンジニアや起業を目指す個人など、さまざまな方たちが本当に楽しそう。目がキラキラしています。

「そうなんです。中には『思ったものとは違う』と離れてしまう人もいるかなと最初は心配していたのですが、皆さん積極的に驚きました。学生の場合は理論重視のカリキュラムから始めますが、社会人の場合はより実践的な学びを提供します。例えば、私が教えるIoT講座では、ドアホンがスマートフォンなどのデバイスにつながるLINEドアホンを自分で作ります。組み立てキットの教材のLINEドアホンは戸建て用ですが、各自でオリジナルのアイデアを足して作るのです。会社の受付や銀行の夜間金庫用、交番の入り口用など、用途が違えばニーズも違います。それを考えながら、スピーカーやマイク、LEDライトなどを付け加えていきます。その他、AI講座ではAIの仕組みを学んで実際にプログラミングをしながらAIを学習させる手順を学ぶなど、座学というよりは自分の頭や手を使って実習することを意識しています」。

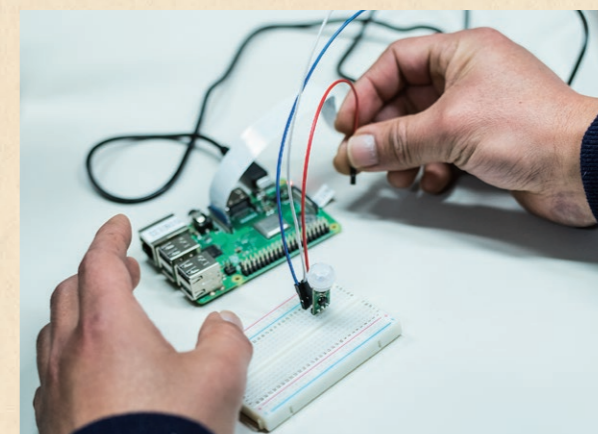
受講者の一人で、保険会社のエンジニアである磯崎敦史さんにお聞きしました。「企業では役職に就くと技術を追い求めるといふより安定性の確保の方が重要に



お話を聞いた磯崎さん。最初は独学で学ぼうとしたものの限界があるといいます。「大学の研究者によるシステムティックな授業なので、整理されて頭に入ります」。



写真上/週末に企画された特別講座後の意見交流会の一コマ。中央、受講者と歓談するのが小林先生です。「我々教員も新しい気付きがあって刺激的ですよ。同じ志を持つ社会人の方々の横のつながりにも期待しています。今後、何か新しいものが生まれるかもしれません」。©2018IT先端技術実習講座



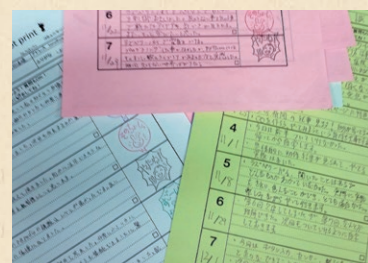
左/講座で制作しているLINEドアホン。各自がアイデアを出し、オリジナル機能を盛り込みます。より実践的な内容が受講者に評価されています。



なっけてきます。新しい技術に興味があつても仕事で触れる機会はあまりなくて、だからといって勉強を怠れば、いざ環境が変わった時に取り残されてしまいます。講座の中では実際にLINEドアホン作りにもトライできて、とにかく面白いですね」。もともとのづくりがしたくて今の仕事を選んだことを思い出したという磯崎さん。同じ興味を持つ仲間同士、異業種交流の輪も広がったといいます。「何しろ十五回ですから、いつの間にか受講者同士が仲良くなります。そのうち一緒に起業しようという方が出てくるかもしれません」と、小林先生。ところで二〇一九年度の講座の募集も間もなく始まるそうです。今度は先端Web

アプリケーション開発技術講座。なにやら難易度が高そうな……。 「ネットショッピングで欲しいものを選んでポチッと押しつたり、クレジットカードを登録したりと、皆さんが日常的にやっていることの仕組みづくりです。技術を習得すれば誰でも実現できますし、起業にもダイレクトにつながります」。一連のIT先端技術習得講座の申し込みは、この事業を行う長崎県次世代情報産業クラスター協議会に企業として加盟することが条件ですが、個人でも県内在住者ならば加盟して応募できます。「長崎大学としては今後、リカレント教育(社会人の学び直し)にも力を入れていきたいと思っています。そのための試金石

となるかもしれません。なにより、二〇二〇年度の新設を目指す新学部「情報データ科学部(仮称)」を準備中です(関連記事P3)。そこで育てる有能な人材がスキルを生かして活躍できる場づくりという意味でも、この事業は大変重要なものです」。講座をてこにして長崎の企業のIT化が進み、また、新しいビジネスが創設されれば、そこで働く人材ニーズも高まるというものの。ビジョンは将来へとつながっているのですね。



受講者の感想や気付きが毎回の用紙に書き込まれます。2019年度の講座のテーマはこうした受講者へのヒアリングから生まれたのだそうです。

IT先端技術習得講座 IT, AI, IoT——社会人の学習意欲を がっちり受け止めて未来に生かす